



江戸の商人

描かれた

販促ツールと
商いの秘訣

入館無料 土日も開館
2024 11/8 金 → 2025 2/2 日

日本銀行金融研究所
貨幣博物館
CURRENCY MUSEUM



小間物問屋の引札(「伏栗」)



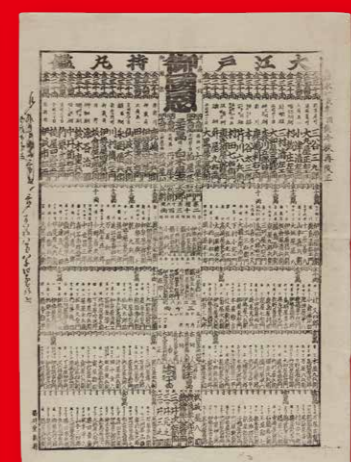
薬屋の引札(「信州東山堂看板之略図」)



山東京伝著作に載せられた京伝の店舗の宣伝



江戸の呉服屋が記された双六
(「新版江戸花呉服屋大双六」)



江戸の長者番付(「大江戸持丸鑑」)



商品券



日本銀行金融研究所
貨幣博物館
CURRENCY MUSEUM

[開館時間] 9:30~16:30 (最終入館は16:00まで)
[会期中の休館日]
月曜日 但し、1月13日(月)は開館
年末年始 12月29日(日)~1月4日(土)
〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-1 (日本銀行分館内)
Tel : 03-3277-3037 (平日9:30~16:30)
[アクセス]
地下鉄 半蔵門線 三越前駅 (B1出口) から徒歩1分
銀座線 三越前駅 (A5出口) から徒歩2分
東西線 日本橋駅 (A4出口) から徒歩6分
J R 東京駅 日本橋口から徒歩8分
神田駅 南口から徒歩9分



最新の開館日・
開館時間情報はこちら



イベント情報はこちら
(随時掲載予定)



人気絵師に描かせた賑わう店先 岩城升屋 (初代歌川広重「岩城升屋店先之図」)



日本橋の薬屋 (歌川芳玉「江戸出店図」)



楊枝屋の店先の様子 (三代歌川豊国「東海道四谷怪談 楊枝見世おもん ほか」)

商いの道具

描かれた江戸の商人

販促ツールと商いの秘訣

貨幣博物館のある江戸・日本橋をはじめ、都市では、古くより商人らによってさまざまな販売方法や流通の仕組みが編み出されてきました。そして、多様な宣伝方法により、人気のある店や商品に関する情報が溢れ、日々活発な売買が繰り広げられていました。

本企画展では、江戸から明治時代にかけて活躍した商人に焦点をあて、貨幣博物館所蔵の浮世絵や双六などの絵画資料の中から商いの様子をご紹介します。また、当時使われていた商家の看板や、商人たちが販売スタイルに合わせて使い分けていた数々の道具類を初めて公開します。加えて、江戸時代に商売の販促ツールとして使われた出版物——引札(広告)——などもご紹介します。

商いが大きく発展した江戸時代、商売に関わる人々が効果的な販売促進のために重ねた工夫から、現在にもつながる商いの秘訣を垣間見ていただければ幸いです。

※一部の展示資料は期間中、展示替があります。



描かれた商人

販促グッズ



団扇絵



火の用心札



三代歌川豊国「流行浴衣当世揃 金魚売り」



三代歌川豊国「夜商内六夏撰 虫売り」



歌川芳藤「当時流行道具のほし見世」



商家の看板